

Chapel News

2008年6月 6

「中心としての教会」

私が高校時代の2年間を過ごしたのは、イタリア北東部、アドリア海に臨むデュイノ(Duino)という小さな村だった。20世紀初頭のオーストリアの詩人、リルケの代表作『デュイノの悲歌』によってその名が知られるが、それは素朴で平和な、まるで時の流れに取り残されたかのような村である。

人口は1万には遠く及ばない。郵便局はあるが銀行はない。商店も、両手で数えるほどしかない。しかしそれは決して、廃れゆく村落ではなかった。その村には、村人たちをゆるやかに結びつける、柔らかな凝集力がはたらいていた。

村の中心には、600年の歴史を持つデュイノ城がある。そして、城門の前の小さな広場から、道が放射状に伸び、散在する民家の営みをつないでいる。広場の傍らの小さなパウルでは、いつも村人たちが談笑していた。

そして、広場から少し小道を入ったところに教会があった。とても小さい。くすんだ石造りの外観はアドリア海の潮風に打たれ、いびつな凹凸をさらす。老婆が毎日夕刻に鐘を鳴らす。彼女には鐘をむちゃくちゃに乱打する癖がある。

そんなちっぽけな教会も、日曜になると、村人たちで一杯になる。私も時々足を運んだ。イタリア語での説教も祈りも、私にはほとんど理解できなかったが、彼らと共に心を鎮め、神を覚え、新たな一週間を迎える準備をする。そんなひとときを、私は彼らと分かちあった。

村の中心は、立派な城でも、広場でも、にぎわうパウルでもなかったように思う。それは、広場の影に隠れた、とても小さな教会であった。

本学のキャンパスはすでに、立派なチャペルに恵まれている。いつかこのチャペルが、私が少年時代にイタリアの片田舎で出会った小さな教会のように、学生たちをゆるやかに、柔らかく結びつける、本当の中心となることを願っている。

(政治経済学科准教授 高端 正幸)

年間聖句

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。」 (マタイによる福音書 第18章19節)

三浦綾子作品

読書感想文コンクール

作品募集中!!



★最優秀作品(1点)、優秀作品及び佳作(若干)には、図書カードを贈呈します。詳しくは、キリスト教センターにある応募要項をご覧ください。たくさんのご応募をお待ちしています。

対象作品:三浦綾子の全作品
申込〆切:7月22日(火)
受賞発表:10月下旬

チャペル豆知識 「座席の穴？」

チャペル座席の上部に設けられている、小さな穴の意味をご存知でしょうか。傘の柄を入れるものではありません。これはキリスト教会で洗礼と共に最も大切にされている儀式、聖餐式において用いられている穴です。その際にクリスチャン一人ひとりに渡される小さな杯を置く場所として備えられています。教会はこの聖餐式を通して、今も私たちと共におられるイエスキリストを体験しています。

夏のリトリートのご案内

日程:8月7日(木)~8月9日(土)

場所:YMCA東山荘(御殿場)

自然に囲まれた場所で、2泊3日、多くの友人たちとレクリエーションや語らいのひと時を過ごしてみませんか?



詳細は、追ってお知らせいたします。どうぞ奮ってご参加下さい。

